

経営発達支援事業(米沢市) 令和6年度 事業評価委員会 報告書

1. 日 時 令和6年 8月27日(火) 13時30分 ~ 14時30分
2. 場 所 米沢商工会議所 第3会議室
3. 出席者名 資料 出欠名簿のとおり 計 17名
4. 議事の経過

米沢商工会議所副会頭太田紀男氏の挨拶の後、前年度委員長である大澤一雄氏が議長となり、以下の議題について審議に入る。

<議 題>

(1) 本委員会役員を選任について【審議】

事務局より、資料P2~3の経営発達支援事業評価委員会設置規程に基づき、役員を選任について説明。互選にて委員長に大澤一雄氏(税理士)、副委員長に高橋輝氏(司法書士)が再任された。

(2) 経営発達支援計画の概要について【説明】

事務局より、令和2年3月認定の第2期経営発達支援計画について、資料P4~7、ならびに経営発達支援計画書に基づき、説明を行った。

(3) 令和5年度事業報告および令和6年度事業進捗状況について【説明】

事務局より、資料P8~11、別添資料に基づき、令和5年度事業報告・令和6年度の事業進捗状況について説明を行った。

【実施概要】資料P5スキーム図を参照

(事業計画作成/フォローアップ)

- ・米沢商工会議所では経営発達支援事業に基づき、簡易な経営分析を行う支援対象者の抽出(掘り起こし)機会を増やしつつ、より詳細な経営分析を行い、経営状況から問題点を正確に把握・分析し、課題を抽出し、事業計画を決定している。その中で、事業計画作成を行った事業所数は目標の50件に対し、55事業所、55件であり、そのフォローアップも目標200回に対し、239回と目標を上回った。
- ・経営指導員側では限られた人員と支援にかかる時間も不足する中で、支援内容を平準化し、支援能力の向上と効率化を図ることが求められるため、より積極的なIT活用を推進する必要がある。そのため、全国200以上の商工団体が運用する経営支援基幹システム「BIZミル」を活用し、経営分析から事業計画書まで一貫した支援ならびに事業者へのフィードバックと情報共有に取り組んでいる。

(地域の経済動向／需要動向調査)

- ・地域経済動向の現状把握を行うため、事業者へのアンケート調査(米沢版小規模 LOBO 調査等)を実施。目標 4 回を達成している。また、国の RESAS を活用した分析も実施。調査、分析の結果は小規模事業者が活用できるよう、米沢商工会議所報やホームページ等で公開している。
- ・地域需要動向の現状把握を行うため、地域内外のイベントや施設、への来場者(消費者)を対象にアンケート調査等を実施。消費者アンケートは、4 回実施の目標の内、4 回実施し、それぞれ 100～150 標本の目標を概ね達成した。実施内容は対象事業者にグラフなどを用いてわかりやすいようにフィードバックし、販売計画のブラッシュアップに活用していただいている。

(新たな需要の開拓に寄与する事業)

- ・事業計画作成セミナーでの個別相談会で個々の商品企画や商談能力向上などノウハウ取得へつなげたうえで、ふるさと納税返礼品の登録や一店逸品事業・まちなかゼミナールなどでの販路拡大を図った。
- ・令和 5 年度はアフターコロナの段階に入り、BtoB 向け、BtoC 向け両方の商談会に向けて積極的な出展支援を実施。専門家を交えて指導と課題を設定したうえで出展した。支援件数は目標をおおむね達成。また、参加事業者の売上向上が見られた。
- ・行政、複数の支援機関や商工会議所との連携での支援実施やそれに伴うブランド構築などの支援事例を創出できた。

(米沢商工会議所の具体的支援事例)

- ・米沢市中小企業新展開促進事業、伴走型小規模事業者支援推進事業、マル経を活用した事業者 1 件を紹介した。(他 16 件は紙面紹介)

(4) 各委員からの意見および提言等【評価】

大澤委員長より事務局が説明した内容について各評価委員に意見・質問を求めた。

意見ならびに質問は以下の通り。

- ・数字目標をほぼ達成しているのは評価できる。米沢商工会議所報等で伴走型の支援を PR しているところも評価できる。ただし、制度内容など含め、もっとわかりやすく PR できればなおよい。また、補助金採択となるのはよいことだとは思いますが、一方本来の事業にプラスになっているのか疑問がある。フォローアップでプラスになるよう支援してほしいし、そのバックデータとなりえる資料も欲しい。
- ・事業承継は喫緊の問題だ。地域で愛される良い店が消えている。零細企業を守るのは商工会議所。いろいろな考えがあると思うが、自然淘汰ではよくないと思う。歴史があつて腕もある、けれども経営能力が少し足りないという事業者を助けてあげてほしい。今もドラッグストアが乱立しているが、それだけになる米沢にはならないよう。

- ・セミナー等の実施時期や日程について、出づらい時期や曜日であるのではないかと感じる。この辺りは検討願いたい。また、所報に掲載されている内容は評価できるが、さらに後追い調査を行ってほしい。特集記事などを組んでその後を追ってほしいのではないかと感じる。長期にわたる支援でどのくらい効果があるか見てみたい。
- ・コロナ禍において傷ついた小規模事業者を継続支援していくのは非常に難しいことであると思うが、さらに寄り添った対応をお願いしたい。また、事例紹介も非常に意義のある事で良い。今後も金融機関と商工会議所の経営指導員が連携を常に行える環境が必要だと思う。そのような中、8月に米沢商工会議所金融部会主催で経営指導員と市内金融機関の若手融資等担当者が一堂に会する懇談会があった。めったにない機会ですべて非常に有意義であった。今後も若手を中心に連携していければよい。
- ・経営指導員の皆さんの努力に感嘆している。様々な課題を持っている事業者をサポートされており、評価したい。一方、どうしたら米沢にお金が、人が入ようになるのかをもっと考えてほしい。経済も観光もまだまだ足りない。継続的になるよう考えていくべきだ。若年層の教育に携わっているが、人口減少、そしてそのスパイラルが課題となる。人口減少を止められるのか。官民挙げてやっていかなければならない。KPIを立てて数字を達成したのはよい。またこの後のフォローアップに期待する。ただ、改めて考えると目標達成した数字が多い方がいいのか、それとも達成の数字は少なくても紹介された好事例が出てきた方がいいのか。考えものである。
- ・ふるさと納税はもっと頑張れるのではないかと？人やお金を回す仕組みをもっと考えてほしい。
- ・商工会議所が限られた人員で、かつ幅広く支援していて大変だと思う。外的要因が多く社会情勢も難しい中、目標に達しているのは評価できると思われる。

質問

- ・令和5年度は目標に対して、達していないものがあるが、それはなぜか？
- 達成していないものがいくつかあるが、「新規の取り組みを行ったうえで「登録」するものになっている。特にブランド事業については米沢市の声かけ等もあり、登録だけが先に進んでいる状況もあって、事業計画を作成するタイミングを逃したものがあつた。しかしながら、事業計画を作成して支援するものは質の高いものになっており、今回の登録1件も地域を巻き込んだ良い活用方法になっていると考えている。
- ・各種調査内容についてどのように提供しているのか説明してほしい。
- 米沢地域小規模 LOBO 調査は当所所報、ホームページで結果をお知らせしている。また、そのほか個別事業者の調査については対象事業者にグラフ等を用いてわかりやすい形にしてフィードバックしている。
- ・創業の状況、特に創業塾参加者フォローアップについての現状をお聞きしたい。
- 創業塾参加者をすべて追っていない。ただ、当所が参加し行っているため、創業される場合は、当所に相談されることが多い。

以上の意見・評価をいただいた。

(5) その他

次回、評価委員会は経営発達支援計画に基づき、令和7年度に令和6年度の事業結果がまとまった時点でできる限り早く開催することとした。

また、事務局より、今年度末(令和7年3月31日)で現在の第2期経営発達支援計画が終了するため、現在新計画を作成中。本年12月に新計画を経済産業省に提出、承認後、来年4月より新計画を実施していくことを報告した。

続いて、現在、米沢商工会議所全会員に対して事業承継アンケート調査を実施中であり、約3割が回答、結果は米沢商工会議所報紙面でお知らせしていくことを報告した。

以上をもって会議を終了した。

【評価委員からの指摘事項について事業実施の見直し検討】

- ① 事業環境が激変する中で、事業者に対し米沢市・米沢商工会議所が実施する支援内容がより分かりやすく伝わるよう、周知することに努める。また、金融機関と連携し、種々の機会積極的にPRしていくことにより、効率的かつ重層的な支援でその輪を広げていく。
- ② 事業者のフォローアップについて、巡回などを引き続き実施、効果の聞き取りをしっかりと行う。またその内容をデータ化することに努める。
- ③ 新たな需要の開拓となる「商談会」「展示会」「即売会」への積極的な出展誘導など既存の取り組みを行ったうえで、今後、マクロ的視点で米沢がどのような地域になれば商工業が発展するのかが行政や金融機関とも検討を重ねていく。

【当日の様様】

